

# 令和3年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－9号)

農林総合研究センター  
令和3年7月28日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・ 7月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高い（平年差：金沢+2.5℃、輪島+1.9℃）
- ・ 7月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高い（平年差：金沢+2.3℃、輪島+1.2℃）

### 【日照時間】

- ・ 7月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢 196%、輪島 256%）
- ・ 7月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢 181%、輪島 197%）

### 【降水量】

- ・ 7月第4半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少ない（平年比：金沢 0%、輪島 0%）
- ・ 7月第5半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少ない（平年比：金沢 0%、輪島 0%）

### 【1ヶ月予報】

7月22日発表の1か月予報（7月24日～8月23日）では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、少ない確率40%、日照時間は、多い確率40%です。週別の気温は、1週目は高い確率50%、2週目は高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

#### 1. 出穂期

- ・ コシヒカリの出穂期は、加賀地域では7月25日～8月2日と、平年に比べ3日早い～並で前年並、能登地域では7月29日～8月3日と、平年に比べ2日早い～並、前年に比べ並～3日遅い見込み。
- ・ ひやくまん穀の出穂期は、加賀地域で8月4日～10日と近年及び前年並、能登地域では8月8日～10日と、近年及び前年並～2日遅い見込み。

コシヒカリ	加賀：	7月25日	～	8月2日	平年に比べ3日早い～並
	能登：	7月29日	～	8月3日	平年に比べ2日早い～並
ひやくまん穀	加賀：	8月4日	～	8月10日	近年に比べ並
	能登：	8月8日	～	8月10日	近年に比べ2日遅い～並

#### 2. 草丈

コシヒカリの草丈は平年比103%（加賀地域101%、能登地域107%）と並。  
ひやくまん穀の草丈は近年比107%（加賀地域107%、能登地域108%）とやや長い。

#### 3. m<sup>2</sup>あたり茎数

コシヒカリは、387本/m<sup>2</sup>、平年比98%（加賀地域98%、能登地域99%）と並になっており、既に出穂期を迎えている圃場が多いことから、穂数は平年並に確保される見込みである。

ひやくまん穀は、389本/m<sup>2</sup>、近年比100%（加賀地域95%、能登地域106%）と並になっており、目標穂数（360本/m<sup>2</sup>）は確保される見込みであるが、加賀地域では目標穂数を下回る圃場も見られる。

### m<sup>2</sup>あたり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	387本	（平年比 98%	前年比 98%	）	21.8	本/株
	加賀	383本	（平年比 98%	前年比 98%	）	21.6	本/株
	能登	393本	（平年比 99%	前年比 97%	）	22.2	本/株
ひやくまん穀	県平均	389本	（近年比 100%	前年比 97%	）	20.6	本/株
	加賀	350本	（近年比 95%	前年比 94%	）	18.7	本/株
	能登	437本	（近年比 106%	前年比 100%	）	23.0	本/株

## 【病害虫の発生状況】

1. 7月下旬の本田侵入調査では、斑点米カメムシ類の密度が平年より多くなっている。
2. 葉いもち、紋枯病、ツマグロヨコバイ、イナゴの発生が散見されている。

### 当面の対策

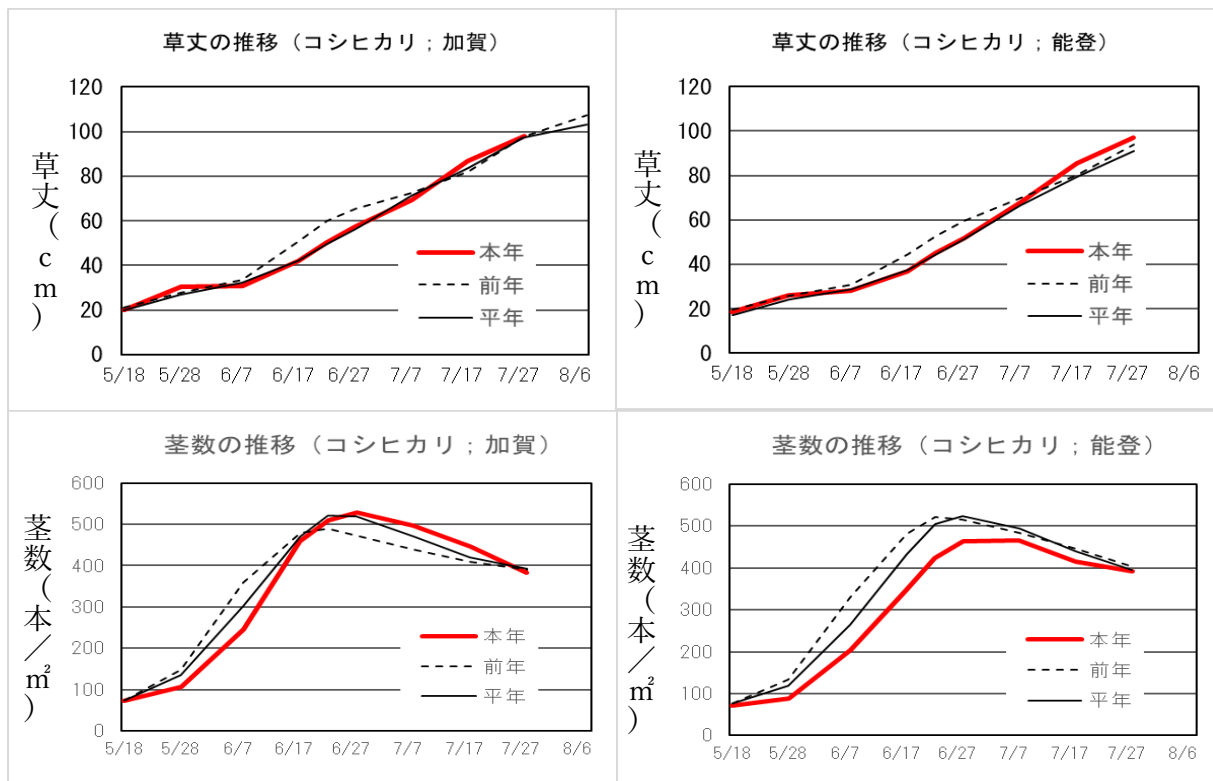
1. 出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り3日前まで行う。
  - (1) 特に、**登熟初中期（出穂後7～21日頃）に平均気温27℃以上の高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長**する。
  - (2) **早期に下葉が枯れ上がると株支持力が低下し倒伏を助長**する。
  - (3) 高温時の長期湛水は、根の機能低下を助長するので行わない。
  - (4) なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。
  - (5) 用水をため池に依存していて少雨が続けている地域等では計画的な水利用に努める。
2. 斑点米カメムシ類の本田への侵入が確認されており、高温・乾燥が続くと侵入頭数がさらに多くなると予想される。斑点米の発生を防止するため**出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底**する。

今後の畦畔等の除草については、カメムシ類の本田侵入を助長するので原則行わない。但し、やむを得ず除草を行う場合は本田防除の直前に行う。
3. 葉いもちの拡大を防止するため、すでに発生している地域では圃場をよく見回り、新たに発生が認められた場合は直ちに防除を実施する。
4. 適期収穫
  - (1) **早生品種**については登熟期が高温で経過しており、胴割粒の発生が懸念される。
    - ① **籾黄化率80%から収穫を開始し、85%までに終了**させる。
    - ② **登熟積算温度の目安は900～950℃である。**
    - ③ 特に五百万石、石川門等の酒造好適米は高度精白されることから、軽微な胴割れでも精米過程で砕けてしまうことに留意し、適期刈取を厳守する。
  - (2) 中生品種、晩生品種については今後の天候に基づいて刈取適期を判断する。
    - ① 高温、多日照となった場合は、早生品種同様に籾黄化率80%で刈取を開始し、90%までに終了させる。

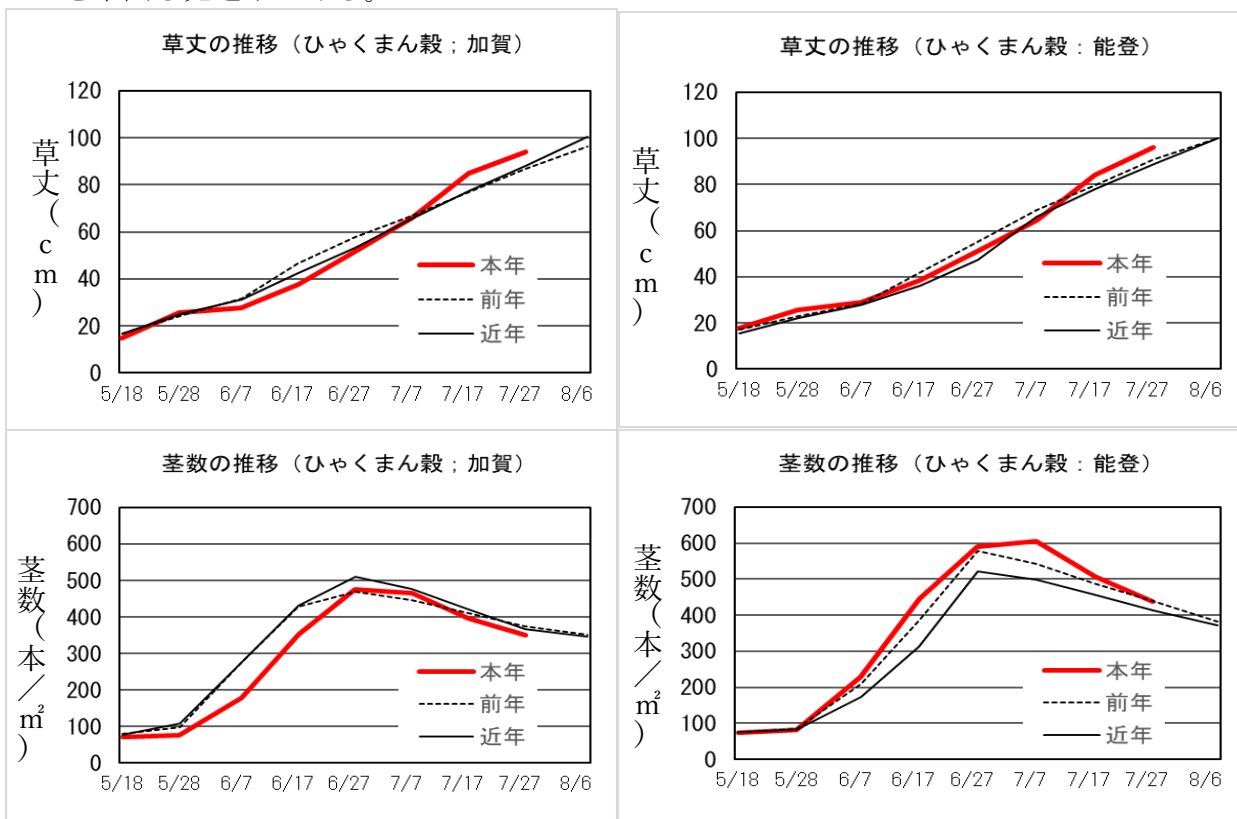
**高温登熟となった場合の積算温度の目安**  
**中生品種980～1,030℃、ひゃくまん穀1,100～1,150℃**
    - ② 低温寡日照又は平年並の気温・日照の場合は、籾黄化率85%から収穫を開始し、90%までに終了させる。
  - (3) 共乾施設においては中生・晩生品種の胴割粒の発生を防ぎ、刈遅れにならない運用計画を作成する。

<参考：コシヒカリ、ひやくまん穀の地域別草丈および茎数の推移>

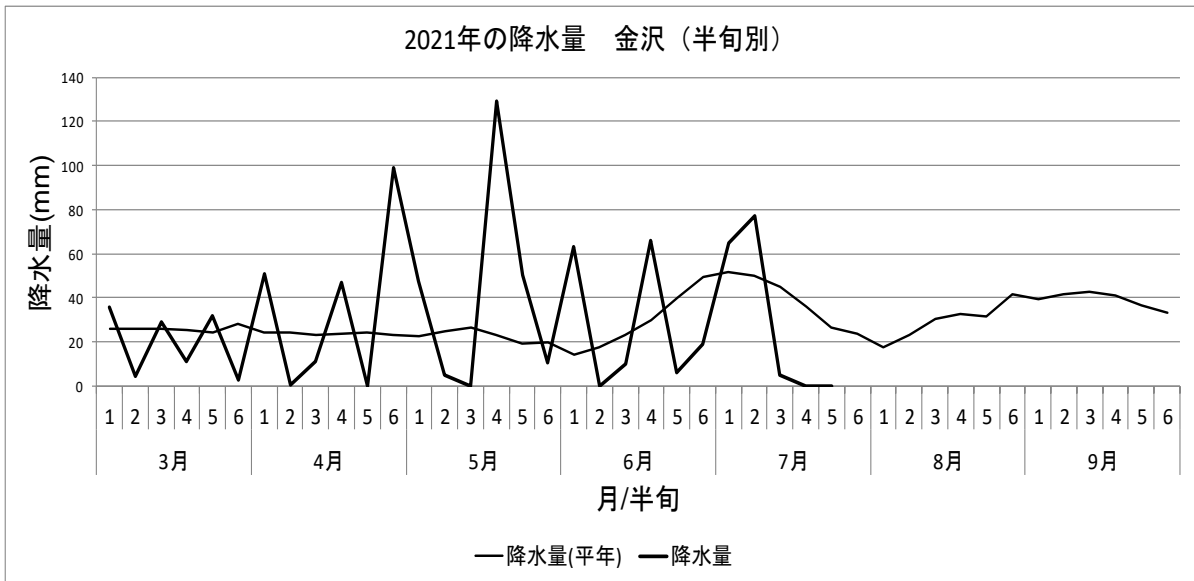
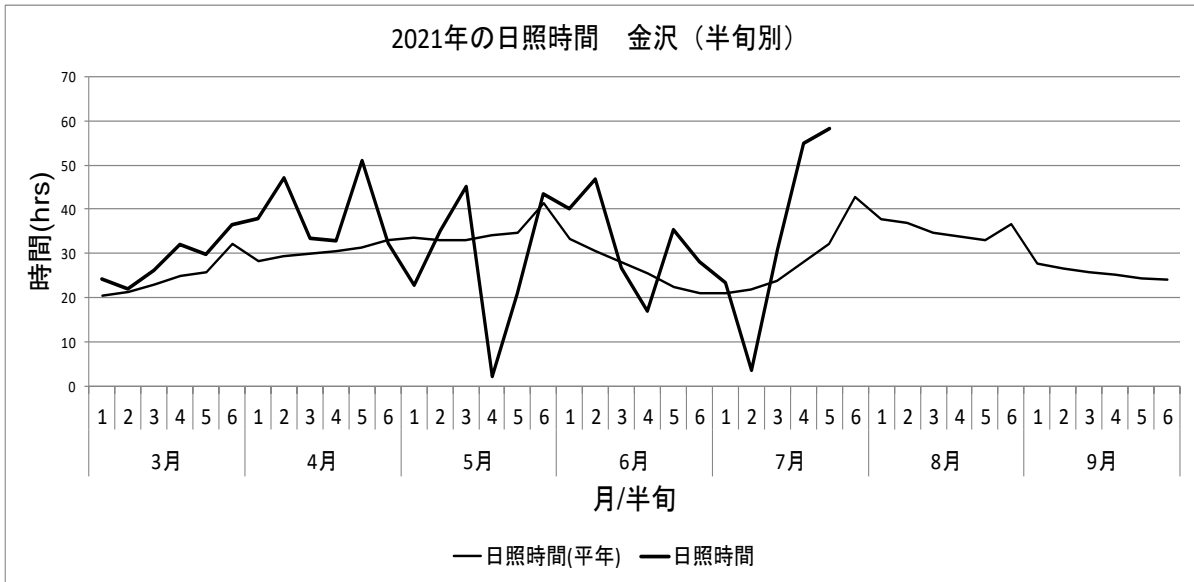
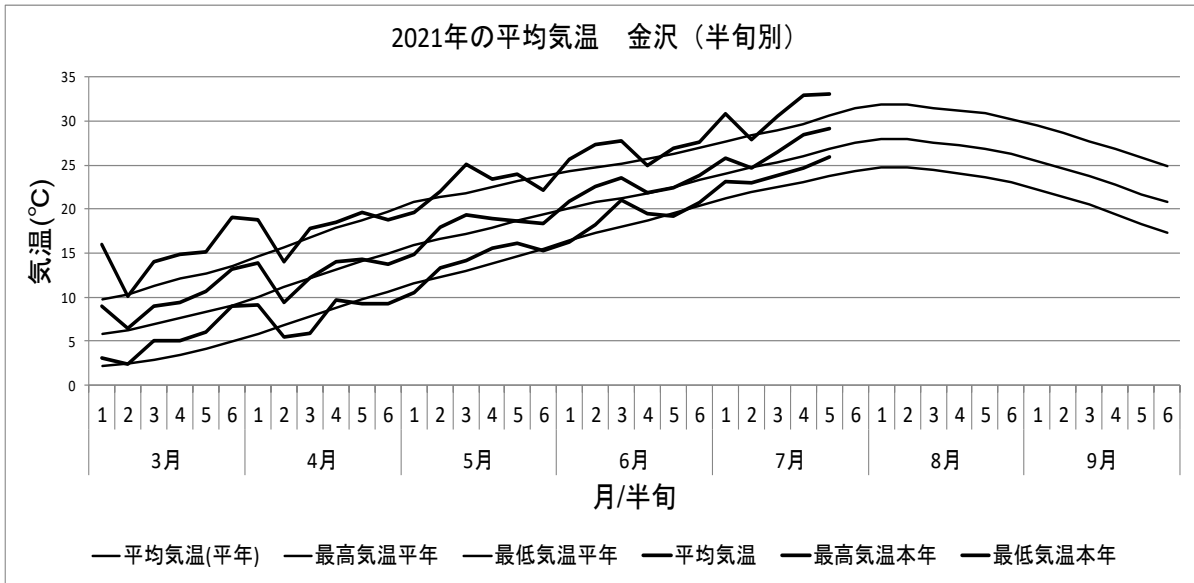
- ・コシヒカリの草丈は加賀地域が平年及び前年並、能登地域は平年よりやや長い。
- ・コシヒカリの茎数は加賀地域、能登地域とも平年及び前年並となっており、穂数は平年および前年並に確保される見込である。



- ・ひやくまん穀の草丈は加賀地域、能登地域ともに近年及び前年に比べやや長い。
- ・ひやくまん穀の茎数は加賀地域、能登地域ともに近年及び前年並となっているが、加賀地域では6月中旬までに茎数360本/m<sup>2</sup>を確保できておらず、目標穂数 (360本/m<sup>2</sup>)を下回る見込みである。



# 気象経過グラフ (金沢気象台)



# 気象経過グラフ（金沢気象台）

